

アンテナを張って!!・・・見出す。

平部 やよい 先生

平部やよい 作・編曲家 エレクトーンプレイヤー

桐朋学園大学音楽学部作曲科卒業。インターナショナルエレクトーングランプリコンクールのジュニア、シニア両部門において1位受賞。

1981年 第1回インターナショナルオリジナルコンサートにて自作「懐歌」～Alt.Sax.とGS-1の為のSymphony～で特別優秀賞受賞。イスラエルフィルその他多くのオーケストラと共演。

エレクトーングレード1級取得。一般財団法人ヤマハ音楽振興会所属専属エレクトーンプレイヤー。日本作編曲家協会会員。国際芸術連盟会員。1980年レイクプラシッド冬期オリンピックでのスケート渡部絵美の演技曲「クリスタル・ファンタジー」を始めとし、映画、ミュージカル、オペラ、博覧会パビリオン等の音楽製作と演奏を担当。

これまでに海外でのコンサートは11ヶ国45都市に及ぶ。1989年より隔年、自作自演によるリサイタルを開催、エレクトーンならではの独奏曲及び他の楽器との作品を多く生み出し、それを演奏し続けている。

<http://www.yayoih.com>



すこい量の課題

エレクトーンや作曲・編曲に馴染みのないスタッフは戦々恐々、おっかなびっくりのスタートでしたが、先生の優しい笑顔に誘われなごやかに、楽しくインタビュウを終えることができました。

― 受験時代からお伺いしたいのですが？

平部 作曲科を志望し、石桁真禮先生先生に師事しました。先生は、作曲は技術だけではなく人間的にも成長しないと書けない、芸大は浪人するのが当たり前というお考えでした。先生が手書きで書かれた和声問題集を書き写すのですが、課題が毎週すこい量なんです。「朝、一番頭が働くから早起きなさい」とも言われ、5時頃に起き、和声の問題をやってから学校に行っていました。石桁先生*1にお習いしていたのですが、大学は桐朋に行きました。理由はすでに演奏活動をしていたのに、当時の芸大は校則として学外演奏を禁止していたからです。それで免許を取って車で大学へ行き、例えば1、2時限目を受けて目黒に行つて

仕事をして、また9、10時限を受けに帰るということをしていました。

― 電子オルガンの魅力を伺いたいたのですが？

平部 オーケストラでも吹奏楽でもビッグバンドでも演奏できない何かを、1人で演奏できれば一番良いのでは!!：最終目標を私はそういうやり方に求めています。その前段階としてオーケストラのリダクションであったり、吹奏楽をそのままコピーして弾いてみたりがあります。それは又すぐく勉強になるので、まずそれをやらないといけない。ですが、そこで終わってしまうとつたいたいという考えです。そうしたことをやった上でどの楽器でも弾けない、オーケストラでも再現できないものを目指したい。それができるのが電子オルガンの魅力だと思います。

曲想にも人間そのものが

― 曲想はどのように??

平部 作曲も曲想も、育ってきた環境なり人間そのものが出ますから。テクニクとか音楽面だけじゃダメなので、小説も読めば映画も見れば美術館に行つていい絵も見ると。そういう色々なところから得たインスピレーションが、ど

ここに要素として糧として入ると思っています。だから浮かばない時は、いくら楽器に向かつていても浮かばないので、学生には好きなことに熱中してみるとか、音楽以外のこともどんどん取り入れるよう勧めています。

カンディンスキー

—カンディンスキーがお好きなのですが。

平部 はい、ああいうのが好きです。あの時代の多面的な見方ですね。いろんな面から一つの物を見るノリノリゴだったら輪郭を書いて中を塗る写実的なリングゴじゃなくて、色々内面的に多角的に見てそれを表現していますよね、あの時代はノそれがすごく面白いと思ってそういう書き方が好きですし、音楽もそういう表現ができたらいいなと思っています。でも中々そこまで到達できません。

名演奏家との共演

—優れた演奏家にお声かけして作品を作られる時って、どのようにされるのですか？

平部 日頃の演奏を聴いておき、ある程度その方のイメージを持ちながら書きます。そして曲を演奏

していただいて、ここはもつとこうしたほうがとかこういう指使いの方がいいとか言っていたら、納得するとすぐ直します。自由に弾いていただいたほうが良い場合は、その部分をお互いの即興演奏にすることもあります。

—二十絃箏曲の吉村先生^{※2}の時は。

平部 邦楽は勉強しても中々分からない部分が多いので、これはお習いするしかないと思います。「作曲するためのレッスンをしていただけですか」というわがままを聞いていただいて、ほんとに初歩のテクニクと、あとは楽器法を教えてください。いただきそれで曲を書きました。

—サクソフオーンの方とも随分。

平部 はい。須川さん^{※3}ノなんてきれいな音色なんだろうノと。少し聴けば、「あ、須川さんの音」って分かるんですね。それってすごいことだと思えます。奏者がすぐ分かるぐらい素敵な音色と云うのは。私のほうは全然まだ追いつかないんですけど、ご一緒させていただきました。

—サクソフオーン属がお好きなのですか？

平部 ああいう同属のアンサンブル、好きですねノ同属だからこそ作り得る響きがノ特にサクソフオーンは音域も表現力も非常に

幅が広いので好きです。弦楽四重奏も大好きなので、第1回のリサイタルでやっているんです。が、書くのがほんとに難しく。各作曲家が晩年でやつと書くような編成なので、中々まだまだ。だから本当に死ぬ間際に一番いい作品が書けたらいいなと思っていますけど。

アンサンブルに魅せられて

—違う楽器とアンサンブルされる理由は何？

平部 鍵盤楽器は1人でも音楽が成立してしまい、ソロ楽器の魅力はあるのですけれども、独りよがりになってしまいがちです。伴奏はあるけれど木管、金管、弦に比べると、アンサンブルの機会が少ないと思うんです。自身の経験からはもつと他の楽器と合わせることをしていかないと、演奏家としてはダメと痛感しています。で、同じ合わせるのだったらトップの方にお願いと非常に勉強になるので、やらせていただいています。あと、色々な楽器の方とアンサンブルする時に気をつけているのは、音の立ち上がりです。楽器で全然違う点です。電子オルガンは、速くもゆっくりもできるよりの遅い楽器だったから一緒に遅く

したり、あるいは向こうが遅いかから、今度はすごく速い音でかけあうということもできます。立ち上がりや音色の豊かさも含め今、電子オルガンは相手に対してカメラのようにも変化できるようになっていて、面白さが増してきています。

—合わせたり、蹴飛ばしてみたり、ずらせてみたり？

平部 はい。それが面白いのです。それと電子オルガンはピアノのよりにスパッと出ず、音の出方が遅いと皆さん思っているらしいんですが、最近はいくらでも速いのができるようになってきました。ただ新しい楽器は、演奏者のテクニクに課するところがほとんど多くなっています。今はちゃんと、ピアノないしピアノ以上に微妙なタッチの変化が出せませんし、スピードも音色もタッチで変えることができるのです。さらにピアノにないのは、持続音が出せ、さらにキーを押し込むことによつて変化させることもできるので、その代わり、ちゃんと弾かないとダメですけど(大笑)。

—書きためておく

—即興部分が多い曲で、今日はすごく

まくいったから、後で譜に起こしたいなというところ？

平部 あ、それはあります。録音しておかないと、というの。もちろんちゃんとして書いているほうが多いんですけど。作曲家が自分で演奏するのは、かつてはやっていったのいつの間にか分業になりました。が、電子オルガンの場合は作曲家の演奏が当たり前の世界なのです。素材をデッサンしたりして。もちろんしないでパツと書かれる方もいらつしやると思うのですが、私は割と書きためておくほうで、その為に普段美術館へ行ったり、見て…。

―ためるんですか？

平部 はい、そうですね。気功の方が気をいただきに山に行くようなものです。

―自然や土地の人からも？

平部 お陰さまで海外もかなりいろんな所へ行かせていただいたので、いろんな国の性格から気質とて、いろいろな民族性というか、行った先のいろんなものを。

―より深く分かるようにして、色々な音の世界と電子オルガンとがぶつかつて…。

平部 そうですね。その面白さでしようね。

―音律も、ピッチ感覚も違って。

平部 はい。そのずれたのが面白い、いいという世界ですね。

―キャバレーが広くないと、ため込みきれないですよ。

平部 そうです。そういう意味では、やはり作曲は本当に一生かかってどのくらいできるか？100%は絶対できないと思います。

―種のたくわえ方というのは？

平部 きちつと勉強もしなくちゃいけないし、…面白いドラマも見て…。その代わり見方を多角的にノただ面白いだけでなく筋がどうなつて、一時間がどういう組み立てで、どこでコマージュが入り、どこでこういう筋がとか、最初にいいところを持つてくるのかとかありますよね。それから音楽との関わりとか、台詞と音楽のタイミング、台詞と一緒に音楽が入るのか、台詞の後に音楽が入った効果的なのか、前に音楽があつてから言ったほうがいいのかとか。コマージュを見る時でも、「ああ、何秒でこうやって、タレントさんの声と音楽とどういうタイミングで」というふうに聴いてしまいます。学生にもコマージュの凝縮されたドラマ性、タイミング、音楽の立ち位置を参考にして欲しいですね。

モノの見方

―一種蔵の中から何かを引き出す方法とか、あるのでしょうか。

平部 やつぱりモノの見方ですね。まずは面白いと思うことが大事。けれども、何が自分を面白いと感じさせたのかということが特に重要です。人によって着眼点は全部違うと思うんです。その面白いと思った時、それで終わりじゃなくてどうしてそうなっているのかという、アナリゼ／そこを頑張つて調べてみるなり勉強して見るなり。その時、それこそ図書館の資料も調べてということになると思うんですけれども。

なぜ転ぶ？

―まずは面白いと感じる？

平部 もちろん大事ですね。ただ理由を考えなさいというのは常に言っています。それは何でも、例えば演奏にしてもここはちよつと転んで弾けないといった時に、どうしてそこが自分は弾けないのかというふうには、そこまで考える人つて少ないんです。多分転んだら練習を重ねて転ばないようにしてしまいますが、なぜ？つて、絶対理由があるんですね。人の手の

形は千差万別で、指の長さの違いと弾く角度の違いと、それでその曲の指使いとしてはどう？という理由があるので、一つの例じゃないと思うんです。弾ける弾けない？何が悪い？というのは。逆にそこが分かると、練習量は少なくて短時間で効率よくできると思うんですけれど…。

選択できるだけの情報量

―演奏者、作曲家、編曲者としてのアンテナも、生活の中で張るといってどうですか？

平部 はい。何でも参考になると思いますし。こういう面白い多角的な楽器を勉強したせいもあると思うのですけれども、いろんなことができる／でも、何でもできるからイコールいいというのでもない／その中から自分で選択し、これを自分は使おうと選ばないといけないのです。でも、選ぶためにはどれがよくてどれがいい音色？いい鳴り？と、熟知していなければならぬ。同じ楽器の中で。機能についてもそうですし、それは何も演奏だけじゃなくて、作曲面でも全部共通することだと思っただけです。選択できるだけの情報量と、それから今度並べてみた時に、自分はどれがいいとか、好き

● いちかわ としつぐ 素人ながら本番をつとめ、プレッシャーにつぶされそうになると、「エンジョイ、エンジョイ」と自分を励ますようにしています。プロを目指す学生さんとは根本的に違うかも知れませんが、今回の先生のお話に救われています。

とか、何でこれがいいかというの
は、やっぱりその人が自分で得て
きた知識から考えるしかないです
ね。その知識をさらに越えさせる
ためにはやっぱり勉強しないとい
けないし。

ボケ・ツツコミも勉強に

―仲良しでも、作曲を志す者は「あなたと一緒」は無理？

平部 そうですね？自我だけ出していてもダメなので、自分とは違うけどこの人のここはいいという、それを受け入れるということもすごく大事だと思います。アンサンブルをたくさんしてきた理由はその点も大きいんですね。自分にはなかった弾き方なり音の鳴らし方なり、その良さを受け入れる時と、逆に音の対話で「向こうがこう出るなら、じゃ、こっちはこう出てみよう」と違う手を打つ場合もありますし。
―聴く側も丁々発止やってくれるほうが楽
つづいてね。

平部 それは例えば、お笑いの「ボケ・ツツコミ」でも勉強になりますし、何でも通じることがあるんですね。そう思っただけと……
―きつて面もありますか？

平部 そうですね。そこまで分かつ

てもらって、時間も限られた中で、
学生も忙しい中で勉強しなければ
いけないですし……

―傍から見ているとレッスンを受けた上
課題も書いて、そして「マーシャルを見る
時も落ち着きがなくなっていく。」(大笑)

平部 やらなきゃいけないと思う
と大変ですけど、楽しんでやって
もらえれば一番いいですよね。

―卒業後の進路は？

平部 プレーヤーも多いですし、
教職にもついています。多角的な
楽器で作曲をかなり勉強するので、
音楽制作に行く人も多いですね。
そういう意味で、一番応用範囲が
広い楽器だと私は勝手に思ってい
るんです。演奏では作曲家にいか
に近づくかという勉強もしますし、
それをいかに崩すかという勉強も
します。即興演奏、編曲、作曲と、
音楽の全部を網羅する必要のある
ものを勉強しているのので、演奏と
か伴奏だけでなく、色々なところ
に応用がきくと思います。

アンテナを張って！

―学生さんに一言いただきたいのですが。

平部 色々なものに興味を持ちア
ンテナを張って、音楽だけでなく
日頃の生活の中から、音楽にどう
やって関連づけていけるだろうと

見出していくことがすごく大切だ
と思うんです。それが演奏につな
がったり、曲を書くのにつながつた
り、友達とのアンサンブルにつな
がったりということだと思うので。
―ご抱負、ご予定がありましたら。
平部 リサイタルを通して皆さま
に自分の音楽を聴いていただくと
いうのがワークスの一つと思っ
ています。作曲面でも、ソロと並行
してさらに他の楽器との曲も書い
ていきたいですね。学生たちも可
愛く、音楽を志す同士となれるよ
うに育っていつて欲しいです。

当館所蔵平部先生作品リスト

楽譜		
	請求番号	タイトル
1	G25-702	Yayoi Hirabe 3.
2	G28-304	Playing note.3
3	G28-339	Symphony No.40. G minor, K550, mvt1. (mozart) arr.
4	G33-690	Sound Galley ~ Electoneのための曲集~
5	H35-497	Trinity ~ 3人のチェロ奏者のための~
6	H38-451	Self by four ways. 四つの自我 ~サクソフォン・クワルテットのための~
7	H50-044	映画音楽メドレー I ~チェロ・クワルテットのための~
8	H50-045	映画音楽メドレー II ~チェロ・クワルテットのための~
9	発注中	見てみたい宇宙の彼方~ 子供のためのピアノ曲 (連弾)
10	G33-872	ジャズでSi-Mi-La (プリム・ローズへのオマージュ ~ピアノ4手
11	F27-376	地球のネットワーク (合唱曲)
CD		
	請求番号	タイトル
1	XD30920	「彩響」平部やよい作品集 I
2	XD41100	The fourth Japan contemporary music festival.
3	XD68545	「煌響」平部やよい作品集 II

平部先生おすすめの資料
CD：平部やよい作品集

◆「彩響」 Columbia COCG-12095 請
求番号●XD30920

※1994年までのリサイタル作品
をまとめた作品集です。ソロの他に
Violin, Cello, Piano, Marimbaとの
作品を収録

◆「煌響」 Blue Art Blue Art003 請求
番号●XD68545他

※2008年までのリサイタル作品を
まとめた作品集。ソロの他に二十絃
箏、Bandoneon, Saxophoneとの
作品を収録

楽譜：平部やよい

◆「SOUND GALLERY」 ヤマハにて
ジックメディア/Electone STEGEA
パソコン用5〜6級 Vol.37 請求番号
●G33690

※凛として美しいメロディーをたたえ、
人の心に深く刻まれる曲ばかりです。